

2025 年度 就職先企業を対象としたインタビュー調査

一調査結果概要版一

本調査の概要

立教大学では、卒業生の就職先企業等を対象とした「就職先企業等に対する調査」を実施しています。本調査では、立教大学の教育およびキャリア支援のさらなる充実を図るために、立教大学卒業生の就職先企業等を対象として、大学教育やキャリア支援のあり方、本学の学士課程における学位授与方針への評価、その内容が社会で活かされている程度、さらに伸ばすべき能力等を聞き取ることを目的としたインタビュー調査を実施しました。

この資料では分析結果の一部を抜粋してご紹介します。調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。立教大学では今回の結果を各学部等や事務部局など全学で共有し、これからの教育改善・充実に活かしてまいります。

就職先企業等を対象としたインタビュー調査の概要

調査手法: デプスインタビュー(1名あたり 50 分)

調査対象者数: 8 名

調査対象者: 本学学生の就職実績または就職希望者の多い企業等に対して調査協力依頼を行い、協力可能と回答のあった企業の中から、業種、規模、就職者数などの観点から考慮、検討し、選定した就職先企業等の人事担当者

調査時期: 2025 年 9 月

就職先企業等インタビュー調査の結果概要

■ 新卒社員(主に文系総合職)に求める資質・能力・スキル

- 特定の専門スキルに関する言及は少なく、「素直さ」、「主体性」、「協調性」、「誠実さ」、「関係構築力」など、社会人の基盤となる資質・態度に関する言及が多くなされました。
- また、「コミュニケーション能力」は、仕事をしていく上で基本能力と位置付けられていました。
- ただし、「コミュニケーション能力」の意味は多義的で、「他者との円滑な協働」「関係者との調整・交渉」といった相互性の高いものから、「分からぬことを率直に質問できる」「必要な情報を主体的に取りに行くことができる」といった業務を前に進める推進力に紐づくものまで含まれていました。

■ 立教大学の学生・出身者の特徴／資質・能力・スキルの充足状況

- 立教大学出身者の印象や特徴を尋ねたところ、立教大学ならではの際立った特徴は見られないとする回答が全体的に多く挙げられました。
- そのうえで、対人特性に関しては、安定感があり協調性が高く、堅実なコミュニケーション能力を備えているという評価が挙げられました。

- 一方で、主体性や野心の強さは控えめで、突破力に欠け、成果志向というより「堅実・平均的」という印象が強いと指摘されました。
- 採用活動中(入社前)の立教大学の学生に対する印象を尋ねたところ、真面目で落ち着いた学生が多く、企業理解に丁寧に取り組む姿勢が評価されていました。また、礼儀正しく誠実で、周囲との調和を重視する傾向が強いというイメージも持たれていました。

■ 立教大学の学位授与方針に対する評価および過不足等についての認識

- 学士課程教育の目的について尋ねたところ、多くの就職先は、「幅広い知識」「調べ・考え・まとめ・発表し・議論する技能」「公共性と倫理性」「異なる価値観との協働」の内容に強い共感を示しており、学位授与方針の4要素はいずれも社会人基礎力と通じるものとして、総じて肯定的に受け止められていました。
- また、「知識」「技能」は、仕事を進めるうえでの基本姿勢である「考える・まとめる・伝える力」として評価されていました。中でも「態度」は最も重要視されており、企業の事業特性とも高い親和性を有していることが挙げられました。
- 他方で、「本質を見極める力」や「俯瞰力」が十分ではなく、物事の位置づけを捉え、影響を予測する力が弱いとの意見が挙げられました。

2025年度のインタビュー調査で明確になったポイント

立教大学では、2023年度も就職先企業等を対象としたデプスインタビューを行っています。

以下では、2025度のインタビュー調査で明確になった企業等が着目しているポイントを紹介します。

*2023年度の就職先企業等を対象としたインタビュー調査の結果の概要は以下のURLからご覧いただけます。

https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/alumni_interview_2023.pdf

- 従来通り「協働を成立させるためのコミュニケーション能力」が最も重視されていることに加えて、「本質を見極める力」や「キャリア形成力」が重要な要素として浮かび上がりました。
- また、「目的意識の浅さ」や「課題の本質を捉えきれない」といった「深掘り力」や「俯瞰力」の不足がより明確になりました。
- さらに、大学教育への期待が一層具体化しました。学位授与方針における「態度」の重要性は維持されつつも、多様性理解の必修化、実務的スキルの育成、さらには早期からの体系的なキャリア形成支援を求める声が強まっていることがわかりました。

2026年1月
立教大学 大学教育開発・支援センター 教学IR部会

付録 立教大学 学位授与の方針

◆ 立教大学の使命

- ・ キリスト教に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与する

◆ 学士課程教育の理念

- ・ 本学建学の精神である「Pro Deo et Patria(神と国のために)」にもとづき、「普遍的なる真理を探究し」(Pro Deo)、「私たちの世界、社会、隣人のために」(Pro Patria)働くことのできる「専門性に立つ教養人」を育成する。
- ・ 「専門性に立つ教養人」を育成するために、以下のような 4 つの目的を掲げ、これらを統合した教育を実践する。

◆ 学士課程教育の目的

1. 知識
専攻する学問領域の「知」の体系を批判的な検証をふまえたうえで理解し、専攻分野以外の学問領域に関しても幅広い知識を習得することが可能な教育。
2. 技能
「知」を検証・獲得・活用するために必要な具体的なスキルを習得することが可能な教育。とくに、学習および生活の場面において、ICT ツール、日本語を含めた 3 つの言語なども用い、調べ、考え、まとめ、発表し、議論することができるようになるための教育。
3. 態度
地球および地域社会の一市民として、高い公共性と倫理性を持ち、異なる文化・ジェンダー・しうがい等に対して自らに内在している偏見に気づいて修正しつつ、異なる価値観を持った人たちと協働してプロジェクトを遂行できるようになる教育。
4. 体験
インターンシップ、キャリア教育、ボランティア活動、クラブ・サークル活動、正課外教育プログラム、といった様々な学習体験・社会体験ができる学習機会の提供。

- ・ こうした教育実践により育成される「専門性に立つ教養人」は、以下の①から⑨までの学修成果を有する者とし、これをもって立教大学の学士号の学位を授与することとする。
- ・ これらの学修成果は各学部の開講科目や全学共通科目等の正課教育に加え、インターンシップや海外留学等、大学が主催する様々な正課外教育の機会においても修得されるものである。

◆ 学士課程教育の学修成果

<真理を探究する>	<他者との共生>
①リベラルアーツの素養	⑤他者を理解する姿勢
②専門性	⑥表現力
<自己を確立する>	⑦リーダーシップ
③自己を理解し発展させる力	⑧国際性
④キャリア展望を確立する力	⑨社会的実践力